

2021年09月22日

MUFGが米Union Bankを売却——格付への影響は限定的

三菱UFJフィナンシャル・グループ（MUFG、証券コード：8306、発行体格付=A+）は21日、米子会社のMUFG Union Bank（Union Bank）の全株式を米U. S. Bancorp（USB）に譲渡すると発表した。譲渡対象はUnion Bankのリテール業務とコマーシャルバンキング業務で、大企業・投資銀行業務や市場業務などは譲渡前に三菱UFJ銀行の米国支店や関連会社に移管する予定。譲渡対価は現金55億米ドルと、USB株式25億米ドル（発行済み株式の2.9%相当）の合計約80億米ドル。譲渡時期は2022年1～6月を予定している。

譲渡対象はMUFGの海外貸し出しの1割強で、グループ全体からみれば大きくない。アジアの地場銀行や米Morgan Stanleyとの提携により海外ネットワークが強いという評価に変わりはなく、格付への影響は限定的と判断している。これまでUnion Bankが持つ個人預金は米ドルの安定調達源としてMUFGの強みであった半面、低金利環境の継続や規制対応のコスト負担で収益性の向上が課題となっていた。Union Bank譲渡後も外貨流動性は顧客性預金や中長期の市場調達で十分な水準にあるものの、今後の外貨調達方針を確認していく。

本取引を通じて海外の事業ポートフォリオを見直し資本効率の底上げを狙う。リテール業務は日本とアジアに集中し、欧米では法人取引に特化していく方針。本取引によるリスクアセットの減少や売却益計上で普通株式等Tier1（CET1）比率は上昇が見込まれる。現中期経営計画で掲げるCET1比率の目標水準に照らすと、株主還元と成長投資の可能性が高まりそうだ。デジタルや海外の資産運用・投資家サービスなど戦略分野への投資意欲も旺盛だ。本取引により得た資金の活用や資本運営に注目する。

本取引の発表と同時に、MUFGはUnion Bankが米銀行監督当局より情報セキュリティに関するガイドラインの遵守違反および内部管理態勢等が不十分であるとの指摘を受け、改善措置等を講じることで合意したと発表した。本取引が完了すれば指摘された事業の多くは切り離されるが、MUFGはグローバルに広範な事業を傘下に擁するだけにグループ全体の内部管理態勢を注視していく。

主任格付アナリスト：大内 祥子

■お問合せ先：マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL. 03-6273-7471 E-mail. infodept@r-i.co.jp

■報道関係のお問合せ先：経営企画室（広報担当） TEL. 03-6273-7273

株式会社格付投資情報センター 〒101-0054東京都千代田区神田錦町三丁目22番地テラススクエア <https://www.r-i.co.jp>

信用格付は、発行体が発行する金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等が約定通りに履行される確実性（信用力）に対するR&Iの意見であり、事実の表明ではありません。また、R&Iは、信用リスク以外のリスクにつき意見を表明するものではなく、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&Iは、信用格付に際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っておらず、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&Iは、信用格付（変更・取り下げ等を含む）に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。信用格付は、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき<https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html>をご覧ください。